

平成22年3月期 第3四半期決算短信

平成22年2月9日

上場取引所 東大

上場会社名 日本新薬株式会社

コード番号 4516 URL <http://www.nippon-shinyaku.co.jp/>

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 前川 重信

問合せ先責任者 (役職名) 執行役員 経理・財務部長 (氏名) 櫻井 太郎

TEL 075-321-9114

四半期報告書提出予定日 平成22年2月10日

配当支払開始予定日 —

(百万円未満切捨て)

1. 平成22年3月期第3四半期の連結業績(平成21年4月1日～平成21年12月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
22年3月期第3四半期	48,491	△0.3	6,885	△2.4	7,193	1.9	4,321	11.9
21年3月期第3四半期	48,661	—	7,052	—	7,058	—	3,861	—

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
22年3月期第3四半期	63.97	—
21年3月期第3四半期	57.11	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
22年3月期第3四半期	103,110	80,246	77.7	1,185.56
21年3月期	98,286	76,344	77.5	1,127.49

(参考) 自己資本 22年3月期第3四半期 80,086百万円 21年3月期 76,192百万円

2. 配当の状況

	1株当たり配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
21年3月期	—	9.00	—	9.00	18.00
22年3月期	—	9.00	—		
22年3月期 (予想)				10.00	19.00

(注) 配当予想の当四半期における修正の有無 無

3. 平成22年3月期の連結業績予想(平成21年4月1日～平成22年3月31日)

(%表示は対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	64,300	1.9	7,700	2.0	8,100	0.7	4,700	4.4	69.58

(注) 連結業績予想数値の当四半期における修正の有無 無

4. その他

(1) 期中における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) 無
新規 一社 (社名) 除外 一社 (社名)

(2) 簡便な会計処理及び四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 有

(注)詳細は、4ページ【定性的情報・財務諸表等】4. その他をご覧ください。

(3) 四半期連結財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続、表示方法等の変更(四半期連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項等の変更)に記載されるもの)

① 会計基準等の改正に伴う変更 無

② ①以外の変更 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む) 22年3月期第3四半期 70,251,484株 21年3月期 70,251,484株

② 期末自己株式数 22年3月期第3四半期 2,700,122株 21年3月期 2,674,288株

③ 期中平均株式数(四半期連結累計期間) 22年3月期第3四半期 67,561,431株 21年3月期第3四半期 67,612,590株

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。連結業績予想に関する事項については、4ページ【定性的情報・財務諸表等】3. 連結業績予想に関する定性的情報をご覧ください。

定性的情報・財務諸表等

1. 連結経営成績に関する定性的情報

当第3四半期連結累計期間（平成21年4月1日～12月31日）の当社グループを取り巻く環境は、医薬品業界においては医療費抑制のための諸施策が引き続き推進され、食品業界においては消費の低迷が長期化していることに加え低価格志向の動きが激しく、それぞれ厳しい状況が続いております。

当第3四半期連結累計期間の業績は、売上高は484億9千1百万円（対前年同期比0.3%減収）、営業利益は68億8千5百万円（対前年同期比2.4%減益）、経常利益は71億9千3百万円（対前年同期比1.9%増益）、四半期純利益は43億2千1百万円（対前年同期比11.9%増益）となりました。

医薬品事業では、前立腺癌治療剤「エストラサイト」、血管拡張性 β_1 遮断薬「セレクトール」は競合品の影響等により売上が減少しましたが、主力品である前立腺肥大症治療剤「エビプロスタット」が大きく伸長、粘膜防御性胃炎・胃潰瘍治療剤「ガスロンN」、アズレン含嗽液「アズノールうがい液」も伸長し、平成21年7月に日本イーライリリー株式会社から販売権の譲渡を受けたED治療剤「シアリス」の売上も寄与しました。また、工業所有権等収益は減収となりましたが、合成抗菌剤「プルリフロキサシン」原薬の売上は伸長いたしました。その結果、売上高は401億6千8百万円と対前年同期比4.2%の増収となりました。なお、当第3四半期においては、平成21年11月に粘膜防御性胃炎・胃潰瘍治療剤「ガスロンN・0D錠4mg」、平成21年12月に粉末噴霧式アレルギー性鼻炎治療剤「エリザスカブセル外用400 μ g」及び肺動脈性肺高血圧症を適応とするホスホジエステラーゼ5阻害剤「アドシルカ錠20mg」を新発売いたしました。

機能食品事業では、加工食品業界、健康食品業界とも厳しい状況が続く中、健康食品素材は堅調に推移しましたが、たん白製剤とニュートリション素材は円高と乳たん白類の輸入原料相場の大幅な下落を販売価格に反映させたため売上が大きく減少し、売上高は83億2千3百万円と対前年同期比17.7%の減収となりました。

[研究開発の状況]

国内では、非麻薬性鎮痛剤「NS-315（一般名：トラマドール塩酸塩）」はがん性疼痛治療剤として承認申請中です。また、慢性非がん性疼痛への効能追加について、平成21年7月に第二相試験を開始しました。骨髄異形成症候群治療剤「NS-17（一般名：アザシチジン）」については、平成21年12月に承認申請を行いました。アルコール依存症治療剤「NS-11（一般名：アカンプロセート）」については、第三相試験を実施中です。日本イーライリリー株式会社から導入した「LY450190（一般名：タダラフィル）」については、同社が、前立腺肥大症に伴う排尿障害改善剤として、第三相試験を実施中です。肺高血圧症治療剤「NS-304」については、アクテリオン ファーマシューティカルズ ジャパン株式会社と共同で第二相試験を準備中です。抗そう痒剤「NST-141」については、大鵬薬品工業株式会社と共同で平成21年5月に第一相試験を開始しました。

海外では、合成抗菌剤「プルリフロキサシン」について、米国では導出先のオプティマー社が第三相試験を終了し、申請に向けて準備中です。中国では導出先のリーズ・ファーマ社（香港）が第三相試験を準備中です。「NS-304」については導出先のアクテリオン ファーマシューティカルズ社（スイス）が平成21年12月に第三相試験を開始しました。サイトレックス社（米国）へ導出した慢性骨髄性白血病治療剤「NS-187」については第二相試験を準備中です。

2. 連結財政状態に関する定性的情報

総資産は1,031億1千万円と前連結会計年度末に比べ48億2千4百万円の増加となりました。流動資産は、現金及び預金、繰延税金資産等が減少しましたが、受取手形及び売掛金、有価証券等が増加し、591億3百万円と前連結会計年度末に比べ15億2千5百万円の増加、固定資産は、有形固定資産が減少しましたが、無形固定資産、投資その他の資産が増加し、440億6百万円と前連結会計年度末に比べ32億9千8百万円の増加となりました。

負債は、賞与引当金等が減少しましたが、その他流動負債等が増加し、228億6千3百万円と前連結会計年度末に比べ9億2千1百万円の増加となりました。

純資産は、利益剰余金、その他有価証券評価差額金等の増加により、802億4千6百万円と前連結会計年度末に比べ39億2百万円の増加となりました。

この結果、自己資本比率は前連結会計年度末から0.2ポイント上昇し77.7%となりました。

(キャッシュ・フローの状況)

当第3四半期末の現金及び現金同等物の残高は、前連結会計年度末に比べ22億9千7百万円減少し、131億4千9百万円となりました。

「営業活動によるキャッシュ・フロー」は、28億2千9百万円の収入となりました。主な内訳は、収入項目では税金等調整前四半期純利益74億円、減価償却費22億4千7百万円、支出項目では売上債権の増加35億3千7百万円、法人税等の支払額29億1千4百万円、その他の流動資産の増加13億1千7百万円、その他の引当金の減少12億6千4百万円です。

「投資活動によるキャッシュ・フロー」は、37億4千9百万円の支出となりました。主な内訳は、支出項目では、長期前払費用の取得による支出32億4千4百万円、有形固定資産の取得による支出9億9百万円、収入項目では、有価証券の償還による収入8億8千3百万円です。

「財務活動によるキャッシュ・フロー」は、12億3千6百万円の支出となりました。配当金の支払い等によるものです。

3. 連結業績予想に関する定性的情報

当第3四半期の業績は概ね順調に推移しており、連結業績予想につきましては、平成21年11月10日の第2四半期決算公表時より変更はありません。

4. その他

- (1) 期中における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）

該当事項はありません。

- (2) 簡便な会計処理及び四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

(簡便な会計処理)

固定資産の減価償却費の算定方法

定率法を採用している資産については、前連結会計年度に係る減価償却費の額を期間按分して算定しております。

- (3) 四半期連結財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続、表示方法等の変更

該当事項はありません。

5. 四半期連結財務諸表
 (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	当第3四半期連結会計期間末 (平成21年12月31日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成21年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	11,409	14,687
受取手形及び売掛金	31,169	27,632
有価証券	2,495	1,798
商品及び製品	5,983	6,050
半製品	714	789
仕掛品	305	381
原材料及び貯蔵品	3,633	3,609
繰延税金資産	1,022	1,617
その他	2,370	1,027
貸倒引当金	△0	△16
流動資産合計	59,103	57,578
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	8,579	9,021
土地	8,160	8,161
その他（純額）	3,400	3,222
有形固定資産合計	20,139	20,406
無形固定資産		
562		307
投資その他の資産		
投資有価証券	12,338	11,532
繰延税金資産	55	164
投資不動産（純額）	1,296	1,330
長期前払費用	8,701	6,166
その他	950	838
貸倒引当金	△37	△39
投資その他の資産合計	23,304	19,993
固定資産合計	44,006	40,708
資産合計	103,110	98,286

(単位：百万円)

	当第3四半期連結会計期間末 (平成21年12月31日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成21年3月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	4,730	4,432
1年内返済予定の長期借入金	51	70
未払金	3,790	3,267
未払法人税等	1,178	1,551
賞与引当金	1,233	2,463
返品調整引当金	31	48
その他	3,088	1,688
流動負債合計	14,104	13,522
固定負債		
長期借入金	146	182
繰延税金負債	205	0
退職給付引当金	8,168	8,009
その他	239	228
固定負債合計	8,759	8,420
負債合計	22,863	21,942
純資産の部		
株主資本		
資本金	5,174	5,174
資本剰余金	4,444	4,444
利益剰余金	68,658	65,553
自己株式	△2,013	△1,985
株主資本合計	76,263	73,186
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	3,847	3,032
繰延ヘッジ損益	2	0
為替換算調整勘定	△27	△26
評価・換算差額等合計	3,822	3,006
少数株主持分	160	151
純資産合計	80,246	76,344
負債純資産合計	103,110	98,286

(2) 四半期連結損益計算書
(第3四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成20年4月1日 至平成20年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成21年4月1日 至平成21年12月31日)
売上高	48,661	48,491
売上原価	21,704	21,404
売上総利益	26,957	27,086
返品調整引当金戻入額	—	17
返品調整引当金繰入額	24	—
差引売上総利益	26,933	27,103
販売費及び一般管理費		
給料及び手当	5,710	5,930
賞与引当金繰入額	788	792
販売促進費	941	925
退職給付引当金繰入額	738	836
減価償却費	263	283
研究開発費	5,967	5,972
その他	5,470	5,479
販売費及び一般管理費合計	19,880	20,218
営業利益	7,052	6,885
営業外収益		
受取利息	163	80
受取配当金	254	208
受取賃貸料	231	247
その他	193	165
営業外収益合計	842	701
営業外費用		
支払利息	12	7
寄付金	130	117
固定資産処分損	33	20
工場解体費用	70	—
賃貸費用	72	79
為替差損	408	48
その他	108	119
営業外費用合計	837	393
経常利益	7,058	7,193
特別利益		
固定資産売却益	—	206
特別利益合計	—	206
特別損失		
投資有価証券評価損	339	—
特別損失合計	339	—
税金等調整前四半期純利益	6,719	7,400
法人税、住民税及び事業税	1,971	2,195
過年度法人税等	—	350
法人税等調整額	884	523
法人税等合計	2,856	3,069
少数株主利益	1	9
四半期純利益	3,861	4,321

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 平成20年4月1日 至 平成20年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 平成21年4月1日 至 平成21年12月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	6,719	7,400
減価償却費	2,093	2,247
退職給付引当金の増減額 (△は減少)	△193	158
その他の引当金の増減額 (△は減少)	△1,145	△1,264
受取利息及び受取配当金	△417	△288
支払利息	12	7
為替差損益 (△は益)	508	139
投資有価証券評価損益 (△は益)	339	—
固定資産売却損益 (△は益)	—	△206
固定資産処分損益 (△は益)	33	20
売上債権の増減額 (△は増加)	△2,951	△3,537
たな卸資産の増減額 (△は増加)	△120	194
その他の流動資産の増減額 (△は増加)	103	△1,317
仕入債務の増減額 (△は減少)	△532	297
未払消費税等の増減額 (△は減少)	173	△6
その他の流動負債の増減額 (△は減少)	509	1,605
その他	△3	12
小計	5,128	5,462
利息及び配当金の受取額	418	289
利息の支払額	△12	△7
法人税等の支払額	△2,901	△2,914
営業活動によるキャッシュ・フロー	2,632	2,829
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の預入による支出	△70	△80
定期預金の払戻による収入	100	60
有価証券の取得による支出	—	△99
有価証券の償還による収入	400	883
投資有価証券の取得による支出	△36	△103
投資有価証券の売却及び償還による収入	45	0
有形固定資産の取得による支出	△1,150	△909
有形固定資産の売却による収入	35	208
無形固定資産の取得による支出	△84	△333
貸付けによる支出	△26	△177
貸付金の回収による収入	71	46
長期前払費用の取得による支出	△2,206	△3,244
その他	0	—
投資活動によるキャッシュ・フロー	△2,921	△3,749

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 平成20年4月1日 至 平成20年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 平成21年4月1日 至 平成21年12月31日)
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額 (△は減少)	30	—
長期借入金の返済による支出	△881	△54
配当金の支払額	△1,152	△1,153
自己株式の取得による支出	△83	△27
その他	8	△0
財務活動によるキャッシュ・フロー	△2,078	△1,236
現金及び現金同等物に係る換算差額	△518	△139
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	△2,886	△2,297
現金及び現金同等物の期首残高	15,153	15,446
現金及び現金同等物の四半期末残高	12,267	13,149

- (4) 継続企業の前提に関する注記
該当事項はありません。

(5) セグメント情報

[事業の種類別セグメント情報]

前第3四半期連結累計期間（自平成20年4月1日 至平成20年12月31日）

	医薬品 (百万円)	機能食品 (百万円)	計 (百万円)	消去又は全社 (百万円)	連結 (百万円)
売上高					
(1) 外部顧客に対する売上高	38,542	10,118	48,661	—	48,661
(2) セグメント間の内部売上高又は振替高	—	—	—	—	—
計	38,542	10,118	48,661	—	48,661
営業利益	6,425	627	7,052	—	7,052

当第3四半期連結累計期間（自平成21年4月1日 至平成21年12月31日）

	医薬品 (百万円)	機能食品 (百万円)	計 (百万円)	消去又は全社 (百万円)	連結 (百万円)
売上高					
(1) 外部顧客に対する売上高	40,168	8,323	48,491	—	48,491
(2) セグメント間の内部売上高又は振替高	—	—	—	—	—
計	40,168	8,323	48,491	—	48,491
営業利益	6,886	△1	6,885	—	6,885

(注) 1. 事業区分は、販売方法及び製品の種類、性質、製造方法の類似性を考慮して区分しております。

2. 事業区分に属する主要な製品

事業区分	主要製品名
医薬品事業	泌尿器官用薬剤、炎症・アレルギー用薬剤、血液がん用薬剤、循環器系及び代謝性薬剤、消化器官用薬剤
機能食品事業	調味・香辛料、健康食品素材、品質安定保存剤、たん白製剤、ニュートリション素材、除菌・洗浄剤、小麦製品

[所在地別セグメント情報]

前第3四半期連結累計期間（自平成20年4月1日 至平成20年12月31日）及び当第3四半期連結累計期間（自平成21年4月1日 至平成21年12月31日）

全セグメントの売上高の合計に占める本邦の割合が90%を超えているため、所在地別セグメント情報の記載を省略しております。

[海外売上高]

前第3四半期連結累計期間（自平成20年4月1日 至平成20年12月31日）及び当第3四半期連結累計期間（自平成21年4月1日 至平成21年12月31日）

海外売上高は、連結売上高の10%未満であるため、海外売上高の記載を省略しております。

- (6) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記
該当事項はありません。

主力製品売上高

(単位:百万円)

平成22年2月9日
日本新薬株式会社

製 品 名	薬 効	第3四半期				通 期	
		H21年 3月期	H22年 3月期	前年同期 増減率	進捗率	H21年 3月期	H22年 3月期(予)
エビプロスタット	前立腺肥大症治療剤	4,609	5,198	12.8%	78.8%	5,950	6,600
ハイペン	非ステロイド性鎮痛・抗炎症剤	4,532	4,527	△ 0.1%	79.4%	5,746	5,700
ガスロンN	粘膜防御性胃炎・胃潰瘍治療剤	3,200	3,515	9.9%	81.8%	4,080	4,300
セレクトール	血管拡張性β1遮断薬	2,701	2,588	△ 4.2%	80.9%	3,415	3,200
ブラダロン	頻尿治療剤	2,464	2,432	△ 1.3%	81.1%	3,153	3,000
セファドール	抗めまい剤	2,235	2,250	0.6%	80.4%	2,842	2,800
エストラサイト	前立腺癌治療剤	2,398	2,243	△ 6.5%	77.3%	3,029	2,900
キロサイド	癌多剤併用療法代謝拮抗剤 再発又は難治性急性白血病治療剤	2,183	2,146	△ 1.7%	85.9%	2,676	2,500
アズノールうがい液	アズレン含嗽液	1,602	1,883	17.5%	72.4%	2,182	2,600
バイナス	アレルギー性鼻炎治療剤	1,351	1,330	△ 1.5%	51.2%	2,663	2,600
シアリス	勃起不全(ED)治療剤	—	1,254	—	57.0%	—	2,200
工業所有権等収益		3,028	1,984	△ 34.5%	94.5%	2,582	2,100
プルリフロキサシン原薬		568	734	29.2%	56.5%	1,009	1,300
医薬品 計		38,542	40,168	4.2%	75.1%	50,357	53,500
機能食品 計		10,118	8,323	△ 17.7%	77.1%	12,714	10,800
売上高		48,661	48,491	△ 0.3%	75.4%	63,072	64,300

製品開発状況

平成22年2月9日現在
日本新薬株式会社

<国内開発状況>

開発段階	開発記号 (一般名)	領域分類	適応	オリジン	開発
申請中	NS-315 (トラマトール塩酸塩)	炎症・ アレルギー系	がん性疼痛 (非麻薬性鎮痛剤)	導入： グリュネンタル社(独)	自社
申請中	NS-17 (アザシチジン)	血液がん	骨髄異形成症候群	導入： セルジーン社(米)	自社
P III	NS-11 (アカプロセト)	その他	アルコール依存症	導入： メルセロノ社(スイス)	自社
P III	LY450190 (タグラフィル)	泌尿器系	前立腺肥大症 に伴う排尿障害	導入： 日本イーライリリー	日本イーライリリー
P II	NS-315 (トラマトール塩酸塩)	炎症・ アレルギー系	慢性非がん性疼痛 (非麻薬性鎮痛剤)	導入： グリュネンタル社(独)	自社
P II 準備中	NS-304	循環代謝系	肺高血圧症	自社	共同： アクテリオン・ジヤパン
P I	NST-141	炎症・ アレルギー系	アトピー性皮膚炎に伴う そう痒	自社	共同： 大鵬薬品工業

<海外開発状況>

開発段階	開発記号 (一般名)	領域分類	適応	オリジン	開発
発売準備中	NM441 (フルリフロキサシ)	感染症	合成抗菌剤	自社	導出： 柳韓洋行社(韓)
申請準備中					導出： オプティマー社(米)
P III 準備中					導出： リース・ファーマ社(香港)
P III	NS-304	循環代謝系	肺高血圧症	自社	導出： アクテリオン社(スイス)
P II 準備中	NS-187 (ハフェチニブ)	血液がん	慢性骨髄性白血病	自社	導出： サイトレックス社(米)

申請中	
NS-315 (トマゾール塩酸塩)	グリネンター社(独)から導入した非麻薬性の経口鎮痛剤で、世界100ヵ国以上で販売されている。軽度から中等度の疼痛を伴う各種癌における鎮痛を適応症として平成20年7月に承認申請。
NS-17 (アザシジン)	セルジーン社(米国)から導入した骨髄異形成症候群(MDS)治療剤で、米国で第一選択薬として用いられている。平成20年12月にセルジーン社がEUで承認取得。全てのMDSサブタイプに効果が認められ、白血病(AML)への転化を遅らせる。作用機序は、血液形成細胞DNAのメチル化阻害。平成20年11月にオーファン指定。骨髄異形成症候群を適応症として平成21年12月に承認申請。
フェーズⅢ	
NS-11 (アカンポセト)	メルクセローノ社(スイス)から導入したアルコール依存症治療剤で、既に欧米で発売済み。国内では平成21年3月にPⅢ試験を開始した。
LY450190 (タラフィ)	前立腺肥大症に伴う排尿障害の適応症については日本イーライリリーが国内PⅢ試験実施中。
NS-304 (海外)	自社開発したプロドラッグ型経口剤で、活性代謝物が長時間血中に持続し、強力かつ選択的なPGI ₂ アゴニスト活性を示す。肺高血圧症治療剤として、欧州医薬品局よりオーファン指定済み。平成20年4月にアクテリオン社(スイス)への導出契約を締結。日本を除く全世界ではアクテリオン社が開発する。平成21年7月にPⅡ試験を終了し、平成21年12月にPⅢ試験を開始した。
フェーズⅡ	
NS-315 (トマゾール塩酸塩)	慢性非がん性疼痛について、平成21年7月にPⅡ試験を開始した。
フェーズⅡ準備中	
NS-304 (国内)	国内は、アクテリオン社との共同開発。PⅠ試験を終了し、肺高血圧症のPⅡ試験開始に向けて準備中。
NS-187 (バフェチン)	イマチニブ耐性変異体Bcr-ablチロシンキナーゼとLynチロシンキナーゼを強力に阻害、イマチニブ耐性にも奏効する慢性骨髄性白血病治療剤として開発。平成17年末にサイトレックス社(米国)へ導出。PⅡ試験準備中。
フェーズⅠ	
NST-141	自社開発した抗ヒスタミン作用ではない新規作用機序の外用剤で、既存の薬剤が奏効しない難治性のそう痒に対しても効果が期待できる。アトピー性皮膚炎に伴うそう痒を適応症として開発予定で、平成20年10月に大鵬薬品工業と基本契約を締結し、国内において共同開発・共同販売となる。平成21年5月にPⅠ試験を開始した。